Bulletin of the Educational Research and Development, Faculty of Education, Kagoshima University
2022, Vol.31, 161-170

資料

円滑な幼保小接続に向けた「生活科」授業の試案
－アニマシオン的手法から－

高平紗梨菜［鹿 児 島 市 立 宇 宿 小 学 校］
金　 娟 鏡［鹿児島大学教育学系（家政教育）］

A Tentative Plan for "Living Environment Studies" toward a Smooth Connection between Nursery-Kindergarten and Elementary School : Through a Method of Animación

TAKAHIRA Sarina and KIM Yeonkyeong

キーワード：幼保小接続、アニマシオン、生活科、指導計画

１．はじめに

平成 17 年に出された中央教育審議会答申および平成 20 年に改訂（改定）された『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』において、学校種間の接続の重要性があげられた。こうした動向を方向づけているのは、いわゆる「小 1 ギャップ」[1] の問題であり、それゆえ学校種間の段差を滑らかにつなげる必要性が求められたのである（加藤・高濱・酒井・本山・天ケ瀬，2011）。また、平成 29 年に改訂（改定）された『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『認定こども園教育・保育要領』および『小学校学習指導要領』においても、「小学校入学当初における生活科を中心とした接続期カリキュラムの充実」「学校種間の円滑な接続を図る必要性」が示されている（今井・後藤，2017）。しかし、文部科学省が行った調査（2009）では、教職員等は学校種間の接続の重要性を指摘しながらも、教育実践上の取り組みは十分に進んでいない状況にあると認識していることが明らかになった。

こうした状況の中、昆布（2013）は、学校種間の接続を見通した教育実践上の具体的な手立ての一つとして絵本に注目し、絵と言葉で構成される絵本は、幼稚園・保育園などでの読み聞かせを通して子どもたちに親しまれており、イメージを具体化する上で視覚と聴覚の両方から情報伝達可能な点から、小学校以降においてもその有効性が発揮できるとしている。また、髙木（2019）は、小学校低学年における絵本の活用が子どもたちの小学校への適応を促すことを見出し、その理由として、まだ思うように文章を読み解くことのできない低学年にとって負担を強いることなく、小学校入学前から慣れ親しんだ安心感をもたらす活動であるためと解釈している。さらに、小学校低学年の教科で取り扱う内容が含まれた絵本を選書し、その活用にアニマシオン（animación）を取り入れることで、幼保小接続期における教科学習の充実が期待できると述べている。金（2020）も、幼保小接続を図る上で中核的な役割を果たす小学校低学年の「生活科」の内容をコネクト・キーワード

[1] 一般的に「小 1 プロブレム」と呼ばれている。しかし、本稿では金（2020）に倣い、幼保小の間には方法的・内容的側面で段差があり、それらの接続に課題があるという視点から「小 1 ギャップ」と呼ぶ。

としてまとめ、これらに該当する絵本リストを提示するとともに、生活科の授業において具体的な活用方法を工夫する必要性を指摘している。

ところで、上述したアニマシオン（animación）とは、魂に命を吹き込み活気づけるという意味の言葉であるが、中でも本を一人で十分に読めない子どもを手助けして、本の内容を理解し深く考え自分のものにすることができる力を引き出すためにスペインで開発された読書指導メソッドを読書へのアニマシオンと呼ぶ（有元，2002）。日本では 1999 年頃から読書へのアニマシオンが広がりを見せ始め（足立，2019）、「大人の考えを押しつけずに、自分で考えられる子どもを育てることができる」「様々な知的能力と人格を育むことができる」「批判力や想像力を段階的に身につけることができる」などの教育的効果が報告され、近年では絵本読み活動にも取り入れられている（村田・横澤，2015）。その一方で、読書へのアニマシオンがもつ教育的効果を保ちながら、気軽に行える新たなアニマシオンのあり方も最近注目されつつある。たとえば桂（2006）は、アニマシオンを読書指導以外に適用したものを「アニマシオン的手法」と呼び、読書へのアニマシオンだけでなく、アニマシオン的手法による小学校低学年の国語の授業実践を報告している。また、白石・佐藤（2019）は､アニマシオンを読書指導に留まらず､アニマシオン的手法として授業内の活動に用いることで、子どもたちにとっては楽しく教科の内容が身につくという効果を、教師にとっては教科の目的を達成する上で子どもたちの興味や関心を引き出しやすいという効果を得ることが期待できるとしている。矢崎（2009）においても、アニマシオン的手法は「仲間と一緒に楽しむ」「異なる他者とのコミュニケーション」「人との関わり合い」を重視した概念であり、アニマシオン的手法を活用し、教師が単元に合わせて適切な活動を展開していくことで、協同的な学びや創造性、想像力を発揮できる機会を増やすことにつながると評価している。

２．幼保小接続期における「アニマシオン的手法」の意義

以上のことから、本稿では幼保小接続を見通した具体的な手立てを模索すべく、主として「アニマシオン的手法」を用いた小学校低学年の授業内の効果的な活用場面を考えていくこととし、一先ず、アニマシオン的手法を小学校低学年の授業に用いることの意義について述べる。1 つ目は、楽しみながら様々な力を身につけることができるという特徴である。子どもたちは､「園生活でしていた遊びと似ているな」という感覚をもって安心して活動に臨むことができたり､「園でもやっていたからできるよ」というような自信をもって活動に参加することができると考えられる。これらによって、就学後の環境の変化に戸惑っている子どもたちから安心感や自信を引き出しながら、小学校における生活や学習の仕方などの学びにつながっていくと考えられる。2 つ目は、人との関わりに重点が置かれているという特徴である。特に、新しい環境に慣れ、安心感を獲得することを重点目標とする小学校低学年において、子どもたちの安心感の獲得に役立つと考えられる。また、アニマシオン的手法のもつ汎用性や発展性から、子どもたちの実態に合わせて活動内容を開発していくことができるため、幼児期に身につけてきた想像力や創造性を発揮し、小学校での学習への意欲を高める機会を計画的に設定できると考えられる。

３．アニマシオン的手法を用いた「生活科」の授業試案

平成 29 年に改訂された『小学校学習指導要領』の第 1 章総則において、幼児期および中学年以降との円滑な接続を図る中核的な役割が低学年の生活科に期待されている、と示された。生活科は、子どもたちが幼児期までに育んできた学びが円滑に移行できるよう、その連続性を重視する教科であると考えられ、本稿では小学校第 1 学年「生活科」における最初の単元である「がっこうたんけん」を取り上げ、効果的な授業方法の提案を行う。「がっこうたんけん」は、平成 29 年の『小学校学習指導要領』生活編の内容（1)「学校と生活」を受けて構成されている単元である。学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えたり、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする態度の育成が目指されている。本稿では、この「がっこうたんけん」を単元とし、前述した「アニマシオン的手法」を取り入れた具体的な指導計画を以下に示す。

１）単元名

第 1 学年生活科「がっこうたんけん」

２）目標

学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。

３）指導の工夫

表 1 に示す本単元の指導に当たっては、「たんけん」というイメージを大切にすること、活動に「アニマシオン的手法」を取り入れることがあげられる。1 つ目の「たんけん」というイメージを大切にすることは、幼児期に慣れ親しんできた「ごっこ遊び」の感覚を子どもたちから引き出しながら授業を行っていくことである。「がっこうたんけん」の活動を行う中で、「たんけんたい」として活動に出かけたり、「さくせんかいぎ」として友達と協力して学校探検のルートを考えたり、「かつどうほうこう」として今日の活動の成果を振り返ったり発表したりする活動を行っていくことで、子どもたち全員が「たんけん」という共通のイメージをもちながら楽しんで活動に参加していくことができるようにする。2 つ目の「アニマシオン的手法」を取り入れることは、学校探検の活動の中に「アニマシオン的手法」を適宜取り入れ、子どもたちが表 2 に示す「生活する力」「学ぶ力」「関わる力」といった 3 つの資質・能力を楽しんで身につけたり、主体的な学びや協働的な学びを促していくことができるようにすることである。

表1　指導計画（総時数13時間）

過程	主な学習活動【評価基準】	発揮する幼児期の経験		
		生活する力	学ぶ力	関わる力
であう・みつける	1　みんなでがっこうをあるこう 導入　読み聞かせ活動『もりのなか』 展開　みんなで一緒に校内を探検する。 終末　「これはどこかな？」 **アニマシオン的手法の活動（1）** 【態度：諸感覚を働かせ、学校の施設や学校で働く人々に興味をもち、楽しんで学校生活を送ろうとしている】		オ、カ	ク、サ
	2　こうていをあるいてみよう 導入　読み聞かせ活動『999ひきのきょうだいの春ですよ』 展開　みんなで一緒に校庭を探検したり、遊具で遊ぶ。 終末　今日の感想を伝えあう。 【知識・技能：学校の施設の位置や学校の決まりを理解している】	ア	オ、カ、キ	ク、サ
	3　ともだちとがっこうをたんけんしよう① 導入　読み聞かせ活動『すてきなさんにんぐみ』 展開　学校探検の決まりを考える。 終末　今日の感想を伝えあう。 【思考・判断・表現：学校探検の目的や安全に探検するためにルールを考えようとしている】		エ、オ	ク、ケ、サ
かかわる	4　ともだちとがっこうをたんけんしよう② 導入　初めての学校探検や遊具で遊んだ写真を見て前回の活動を思い出す。 展開　自分たちだけで行く学校探検の計画を立て、準備する。 終末　今日の感想を伝えあう。 【思考・判断・表現：行ってみたい場所を選んで、自分なりの探検の計画を考えようとしている】	イ、ク	エ、カ	ク、ケ、コ、サ
	5　ともだちとがっこうをたんけんしよう③ 導入　読み聞かせ活動『きょだいなきょだいな』 展開　自分たちだけで学校探検をする。 終末　「これはどこにあるもの？」 **アニマシオ的手法の活動（2）** 【知識・技能：学校探検のルールや学校の決まりを理解している】 【態度：同じグループの友達と協力し、見通しをもち、諸感覚を働かせながら、学校の施設や人々に関心をもち関わろうとしている】	ア、イ、ウ	エ、オ、カ	ク、ケ、コ、サ
	6　がっこうにいるひととなかよくなろう① 導入　学校探検の時の写真を見て前回の活動を思い出す。 展開　インタビューで聞きたいことをまとめ、準備する。 終末　今日の感想を伝えあう。 【思考・判断・表現：自分の思いや願いに基づいて活動の目的や質問内容や調べる方法等を考えようとしている】	イ、ウ	エ、カ	ク、ケ、コ、サ
	7　がっこうにいるひととなかよくなろう② 導入　読み聞かせ活動『ぼくんちどうぶつえん』 展開　先生方へのインタビューをする。 終末　「これはだれのこと？」 **アニマシオン的手法の活動（3）** 【知識・技能：挨拶や適切な話し言葉を使ってインタビューすることを理解している】	ア、イ、ウ	エ、オ、カ	ク、ケ、コ、サ

表1　指導計画（総時数13時間）

過程	主な学習活動【評価基準】	発揮する幼児期の経験		
		生活する力	学ぶ力	関わる力
つたえあう・つながる	8　たんけんでみつけたことをはなそう① 導入　これまでの活動の写真を見て、どんなことがあったかを思い出す。 展開　これまでの探検で見つけたものや感想をまとめたり、クイズ大会の準備をする。 終末　今日の感想を伝えあう。 【態度：これまでの学校探検を通して、見つけたものや楽しかったことなどを友達に素直に伝えようとしている】	イ、ウ	キ	サ
	9　たんけんでみつけたことをはなそう② 導入　これまでの活動の写真を見て、どんなことがあったかを思い出す。 展開　学校の秘密クイズ大会を行う。 終末　今日の感想を伝えあう。 【知識・技能：学校の施設や人々の様子や役割が分かり、自分とどのような関わりがあるかを理解している】 【思考・判断・表現：自分なりの表現方法で楽しく表現したり、調べたことをみんなに伝えたいという相手意識をもって表現している】	イ	エ、カ、キ	ク、ケ、コ、サ
	10　みんなでつうがくろをあるこう 導入　読み聞かせ活動『ちびごりらのちびちび』 展開　みんなで学校の周りを歩く。 終末　「つうがくろのじゅんばん」 **アニマシオン的手法の活動（4）** 【知識・技能：自分たちの安全を守っている人々や施設などの通学路の様子に気づいている】	イ	エ、オ、カ	ク、サ
	11　つうがくろのあんぜん 導入　学校の周りの写真を見て、学校の周りの様子を思い出す。 展開　学校の周りを歩いて見つけたものや感想をまとめ、安心で安全な通学の仕方について考える。「なににきをつければいいかな？」 **アニマシオン的手法の活動（5）** 終末　今日の感想を伝えあう。 【思考・判断・表現：安心で安全な通学の仕方について考えようとしている】 【態度：登下校時のルールやマナー守って、安心で安全な登下校をしようとしている】		エ、カ、キ	ク、ケ、サ
	12　がっこうだいすき① 導入　これまでの活動の写真を見て、どんな学習をしてきたかを思い出す。 展開　これまでの学習を振り返り、感じたことや考えたことを自分なりの表現で表す。「これからのぼく、わたし」 **アニマシオン的手法の活動（6）** （絵をかく活動とこれからのぼく、わたしの活動を選択させ行う） 終末　今日の感想を伝えあう。 【知識：できるようになったことや自分自身の成長に気づいている】	イ、ウ	オ、カ、キ	サ
	13　がっこうだいすき② 導入　読み聞かせ活動『たまごにいちゃんぐみ』 展開　これからの学校生活で楽しみなことやどんな一年生になりたいかなどを発表する。 終末　今日の感想を伝えあう。 【態度：これからの小学校生活に対する期待をもって、楽しんで遊びや生活をしたりしようとしている】	イ	エ、オ、カ、キ	サ

表2　生活科において発揮する発展した幼児期の経験と3つの資質・能力

資質・能力	生活科において発揮する発展した幼児期の経験	
生活する力	ア	時計を活用し、見通しと予測をもって活動する
	イ	道具や配布物の整理、食事、身支度をする
	ウ	困ったときに人に力を借りて乗り越える
学ぶ力	エ	全身で話を聞き、内容を理解し考える
	オ	読み聞かせを継続して聞き、想像し考える
	カ	体験的な活動を通して、諸感覚で感じ考える習慣を身につける
	キ	運動・音楽・創作活動を通して、楽しく自己表現をする
関わる力	ク	学校の約束やルールは必ず守るという意識をもつ
	ケ	目的やルールを話し合い、協力する楽しさを味わう
	コ	折り合いを付ける経験を重ね、友達との関わりを広げる
	サ	伝えあいや振り返りを行い、友達と自分のよさに気づく

４）アニマシオン的手法を用いた活動内容

（１）活動名　「これは、どこかな？」

想定される実施場面　みんなでがっこうをあるこう（表 1 の 1/13）の終末部分

ねらい　学校の施設の様子に興味を持ち、楽しく安心して活動に取り組もうとする。

活動内容　表 3 参照

（２）活動名　「これは、どこにあるもの？」

想定される実施場面　ともだちとがっこうをたんけんしよう③（表 1 の 5/13）の終末部分

ねらい　学校の施設の様子に興味をもち、同じグループの友達と協力し、楽しく安心して活動に取り組もうとする。

活動内容　表 4 参照

（３）活動名　「これは、だれのこと？」

想定される実施場面　がっこうにいるひととなかよくなろう②（表 1 の 7/13）の終末部分

ねらい　学校で働く人々に興味をもち、同じグループの友達と協力し、楽しく安心して活動に取り組もうとする。

活動内容　表 5 参照

（４）活動名　「つうがくろのじゅんばん」

想定される実施場面　みんなでつうがくろをあるこう（表 1 の 10/13）の終末部分

ねらい　自分たちの安全を守っている人々や施設などの通学路の様子に興味をもち、友達と協力しながら、楽しく安心して活動に取り組もうとする。

活動内容　表 6 参照

（5）活動名　「なににきをつければいいかな」

想定される実施場面　つうがくろのあんぜん（表 1 の 11/13）の展開部分

ねらい　正しい通学のマナーやルールが分かり、これからも進んで守ろうとする態度を養う。

活動内容　表 7 参照

表3　活動内容

主な活動内容	教師の具体的な働きかけ
1　教室の前に集まって座る。	○ 幼児期の活動と同じ環境にし、子どもたちに安心感を持たせるために、教室の前方に子どもたちを集める。
2　校内を歩いて回った感想を発表する。	○ 楽しく参加するために、無理に誘うことをせず、発表を望む子どもに機会を与える。
3　教師が、感想の中で出てきた教室の名前カードを黒板に貼る。	○ 子どもたちの言葉を基に活動を進めていくために、教室の名前が出てこないときは、教室の中にあったものや部屋の特徴をヒントとして出しながら子どもたちとやり取りをしていく。
4　教師が、黒板に見学で見て回った教室の写真カードを無作為に貼る。	○ 使用する写真は、教室の特徴的な部分が写っているものを用意し、子どもたちが視覚的に考えることができるようにする。
5　名前カードと写真カードを線でつなぐ。	○ 自分で考える力を育てるために、一人で考えているときは、みんなは静かに見守り、つなぎ終わった後にみんなで合っているかを確かめるようにする。
6　線でつなぎ終わったら、写真カードがどの教室を指しているのかを全員で確認する。	○ 国語科との関連を図るために、確認を行う際には、写真を指しながら「これは・・・です」という表現を使って話す練習を行う。

表4　活動内容

主な活動内容	教師の具体的な働きかけ
1　学校探検を行ったグループごとに教室の前に集まって座る。	○ 幼児期の活動と同じ環境にし、子どもたちに安心感をもたせるために、教室の前方に子どもたちを集める。 ○ すぐに話し合えるように、同じグループ同士近くに座らせる。
2　学校探検をした感想を発表する。	○ 楽しく参加するために、無理に誘うことをせず、発表を望む子どもに機会を与える。
3　教師が、感想の中で出てきた学校の中にある物の名前カードを黒板に貼る。	○ 子どもたちの言葉を基に活動を進めていくために、物の名前が出てこないときは、その場所に探検に行った子どもたちが思い出せるような言葉かけを行う。
4　教師が出した物の名前カードの写真一つずつ見て、これは何という名前かを答える。	○ ひらがなに親しむために、文字カードを用意し、視覚的に考えることができるように、写真カードを用意する。
5　物の名前カードと写真カードを一緒に黒板に貼る。	○ 自分で考える力を育てるために、一人の子考えているときは、みんなは静かに見守り、考え終わった後にみんなで合っているかを確かめるようにする。
6　同じ場所にあった物をグループにする。	
7　グループになっているものはどこにあったかを答える。	○ 国語科との関連を図るために、確認を行う際には、写真をさしながら「これは・・・です」「～は・・・にあります」という表現を使って話す練習を行う。
8　全員で黒板に貼ってあるカードを確認する。	

表5　活動内容

主な活動内容	教師の具体的な働きかけ
1　学校探検を行ったグループごとに教室の前に集まって座る。	○ 幼児期の活動と同じ環境にし、子どもたちに安心感を持たせるために、教室の前方に子どもたちを集める。 ○ すぐに話し合えるように、同じグループ同士を近くに座らせる。
2　インタビューを行った感想を発表する。	○ 楽しく参加するために、無理に誘うことをせず、発表を望む子どもに機会を与える。
3　ある先生に関するキーワードの言葉カードを黒板に貼る。	○ 子どもたちの言葉を基に活動を進めていくために、キーワードが出てこないときは、インタビューに行った子どもたちが思い出せるような言葉かけを行う。 ○ ひらがなに親しむために、文字カードを用意する。
4　このキーワードは、どの先生のことを説明しているのかを考える。	○ 学習の進め方を身につけるために、まずは一人で考えさせ、そのあとにグループで考えて発表を行わせる。
5　グループごとに答えを発表する。	○ 発表の際には、国語科との関連を図るために、「これは、・・先生のことだと思います」という表現を使って話す練習をする。
6　正解発表を行う。	

表6　活動内容

主な活動内容	教師の具体的な働きかけ
1　教室の前に集まって座る。	○ 幼児期の活動と同じ環境にし、子どもたちに安心感を持たせるために、教室の前方に子どもたちを集める。
2　学校の周りを歩いて回った感想を発表する。	○ 楽しく参加するために、無理に誘うことをせず、発表を望む子どもに機会を与える。
3　生活班ごとに横に並び、班の人数分の別のある施設のことが書かれた文カード一人ずつを配る。	○ 順番が分からない子どもに対しては、どんなものがあったかを教師と一緒に思い出せるように声掛けを行う。
4　左から順番に声に出して文カードを読み、今日の探検で出てきた順番に並び変わる。（各生活班ごとに行う）	○ 国語科の音読との関連を図り、大きな声ではっきりと文カードを読むように指導する。
5　全体で答え合わせを行う。	○　班で協力して行えるように声掛けを行う。

表7　活動内容

主な活動内容	教師の具体的な働きかけ
1　教室の前に集まって座る。	○ 幼児期の活動と同じ環境にし、子どもたちに安心感を持たせるために、教室の前方に子どもたちを集める。
2　絵カードを一枚ずつ見て、どんなことを思ったか発表する。（絵カードの絵は、教科書に掲載されている絵を使用する）	○ 楽しく参加するために、無理に誘うことをせず、発表を望む子どもに機会を与える。
3　通学中のお約束が書かれた文カードを全員で声に出して読む。	○ 言葉が出てこないときには、絵のどこに注目すればいいか分かるような声掛けを行う。
4　黒板に貼られたお約束カードと絵カードの組み合わせを考える。	○ 全員が見やすいように大きなお約束カードを用意する。
5　正しいと思う組み合わせを発表する。	○ 学習の進め方を身につけるために、まずは一人で考えさせ、そのあとに二人組で考えて発表を行わせる。 ○ 発表の際には、国語科との関連を図るために、「これは、・・・だと思います」という表現を使って話す練習をする。
6　全員でお約束カードと絵カードを照らし合わせながら確認する。	

表8　活動内容

主な活動内容	教師の具体的な働きかけ
1　これまでの活動で楽しかったことを思い出して書く。 2　これから楽しみなことや探検で見つけた格好良かったお兄さんやお姉さんの姿を思い出して書く。	○ イメージを膨らませやすいように、これまでしてきた活動を写真などを見ながら振り返らせ、キーワードとなる単語や文を書かせる。
3　これからの自分の姿をイメージして物語を書く。	○ これからの生活に期待がもてるように声掛けを行いながら、子どもたちが楽しく学校生活が送りたいというイメージを膨らませていくことができるようにする。

（6）活動名　「これからのぼく、わたし」

想定される実施場面　がっこうだいすき①（表 1 の 12/13）の展開部分

ねらい　これまでの活動でのイメージを膨らませ想像力を高める。

活動内容　表 8 参照

４．まとめと今後の展望

本稿では、円滑な幼保小接続に向けた教育実践の手立てとして「アニマシオン的手法」に着目し、小学校第 1 学年における生活科の具体的な指導計画を提案することができた。今後は、本稿で提示した指導計画に基づく成果を検証することが必要であると考える。本稿の指導計画が小学校入学による環境の変化に戸惑いをもつ子どもたちにとって、新しい環境への安心、自信、成長をどの程度促すことができたのかという成果検証までは至っていないため、実際の授業実践を通して検証することが求められよう。最後に、幼保小接続を円滑に進めるためには、接続期に関わるすべての教職員がその重要性を理解し、共通認識を深めることはもちろんのこと、幼保小接続に有効に働く具体的な授業実践の方法について、さらなる創意工夫や情報共有が必要であろう。

５．引用・参考文献

足立幸子　2019 「読書へのアニマシオン」の日本における導入と展開　新潟大学教育学部研究紀要第 11 巻第 2 号，pp.151-157

有元秀文　2002　『子どもの「読む力」を引き出す読書へのアニマシオン入門』 学習研修社

今井康晴・後藤正矢　2017　改訂幼稚園教育要領と改訂小学校学習指導要領における幼小接続　東京未来大学研究紀要 11，pp.171-179

桂 聖　2006　アニマシオン的手法による文学の読みの授業 ： 第 1 学年「お手紙」の実践を通して　東京学芸大学教育学部附属小金井小学校研究紀要 28，pp.25-30

加藤美帆・高濱裕子・酒井 朗・本山方子・天ケ瀬正博　2011　幼稚園・保育所・小学校連携の課題とは何か　お茶の水女子大学人文科学研究 7，pp.87-98

金 娟鏡　2020　幼小接続における絵本の可能性－児童図書モデルリストを活用して－　日本保育学会第 74 回大会発表（WEB 開催）

厚生労働省　2008 『保育所保育指針』

厚生労働省　2017 『保育所保育指針』

昆布孝子　2013　教材としての英語絵本を活用－幼児教育学科における英語演習の授業－　奈良文化女子短期大学紀要 44,　pp.137-146

白石海里・佐藤佐敏　2019　アニマシオンの短期集中型プログラムの開発 :「朝読書」の時間を活用した実践の成果と課題　言文 66,　pp.14-27

髙木友子　2019　小学校スタートプログラムにおける読み聞かせの利用について―小 1 プロブレムから円滑な接続へ―　湘北紀要第 40 号,　pp.83-92

内閣府・文部科学省・厚生労働省　2017　『認定こども園教育・保育要領』

村田勝夫・廣澤貴理子　2015　アニマシオンによる科学マジックと絵本の読み聞かせの試み　徳島大学大学開放実践センター紀要第 24 巻,　pp.49-56

文部科学省　2008 『幼稚園教育要領』

文部科学省　2009 『幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告書）』

文部科学省　2017a 『幼稚園教育要領』

文部科学省　2017b 『小学校学習指導要領』

矢崎満夫　2009　アニメを素材とした日本語学習活動『アニメで日本語』の開発－「アニマシオン」のティーチング・ストラテジーに着目して－　静岡大学国際交流センター紀要第 3 号,　pp.27-42

付記

本稿は、第一著者が令和 2 年度に鹿児島大学教育学部（家政）に提出した卒業論文の一部を第一著者と第二著者とで加筆修正したものである。